

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す生徒像含む）

(1)基本目標：「人間尊重の精神」を基盤として、心身ともに健康で知・徳・体の調和のとれた、
心豊かでたくましい生徒を育成する。

(2)具体目標(具体的な児童生徒像など):◎長期目標として

◎たしかな学力をもつ生徒(知) ◎豊かな心をもつ生徒(徳) ◎強い体力・気力をもつ生徒(体)

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）：生徒が安心して力を発揮できる学校

社会に貢献できる日本人を育成するため、生徒一人一人の自らの良さや持てる力に気付かせ、それらを伸ばしていく指導をもとに、確かな学び、豊かな心、健やかな体を育む教育活動の充実を図る。さらに、人とのつながりの中で互いに支え合い、人に役立つことの意義が理解できる生徒を育成する。そのために、すべての生徒が安心して力を発揮できる学校を目指す。

3 学校経営の方針（中期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

(1) 基本的な考え方

これからの共生社会を担う健全な生徒の育成を目指し、知・徳・体の調和のとれた教育を行う。そのため、正しい人間観を育てる教育を重視するとともに、社会性を高めるための諸活動を通じて、他者とよりよく生きる力を育成する。併せて、地域に開かれた信頼される学校づくりに努めるとともに、地域の教育力の活用にも努める。

(2) 基本方針

- ① 学業指導を充実し、生徒一人一人の自己実現に向けた主体的・協働的な学習の推進と、社会との関わりの中で自分の生き方を見つめ考えさせるキャリア教育の充実を図る。
- ② 基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着と思考力、判断力、表現力の育成に加え、学力調査等の活用と学習習慣の確立による、確かな学力を育む学習指導を推進する。
- ③ 生徒一人一人の人格を尊重し、自己有用感と思いやりの育成を積み重ね、困難を乗り越えるたくましさを含養する豊かな心を育む教育を推進する。
- ④ 生涯にわたって健康で安全な潤いある生活が送れるよう、健康教育と安全教育の充実を図り、強い体力・気力を育む教育を推進する。
- ⑤ 共生社会の実現を目指すため人権教育の充実とグローバルコミュニケーション能力の育成を図る。
- ⑥ インクルーシブ教育システムの推進に向けた特別支援教育の充実を図る。
- ⑦ 地域学校園小中一貫教育の推進と地域諸団体との連携、生徒の地域貢献活動の実践による、地域とともにある学校づくりを推進する。
- ⑧ 学校における働き方改革を推進するとともに、教育公務員としての使命と職責を自覚し、相互に高め合い学び合う協働的な同僚性の構築と、教職員の指導力と専門性の向上を目指す。

(3) 育てたい資質・能力

- ① 小規模校の強みを生かし、多くの体験学習を通して自己有用感を育てる。
- ② コミュニケーション力を高め、生徒相互の多様な力を認め合い、共感的な人間関係を育てる。
- ③ 自己決定の場を設け、その実現に向けて粘り強く取り組む意欲と態度を育てる。

[晃陽地域学校園教育ビジョン]

「地域に根ざし、子どもが生き生きと活動する地域学校園」

－児童生徒の学習習慣の定着と学力向上を目指して－

4 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】	○生徒が安心して力を発揮できる学校づくりのための指導と評価の充実
【学 習 指 導】	○学力向上を目指す学習指導の改善と生徒の学習習慣の育成
【児 童 生 徒 指 導】	自己有用感を育てる生徒指導と個別支援の充実
【健康（体力・保健・食・安全）】	自他ともに健康で安全な生活を送ろうとする実践力の育成

5 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項 目	評価項目	主な具体的な取組	方 向 性	評 価
	A1 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上 保護者の肯定的回答 85%以上	① 主体性や連帯感を育てるため、生徒が活動し活躍できる機会を意図的に作り、自己有用感を持たせる。 ② 道徳の授業の充実を図り、心豊かな生徒の育成に努める。	A	【達成状況】 ○肯定的回答：生 徒 93.4 % 保護者 91.8 % ・学級活動、生徒会活動等を中心に、①については全校でよく取り組んでいた。②についても、教科化を見据え、各学年・学級でより充実した取組ができていた。 【次年度の方針】 ・①、②について、保護者への情報提供等を充実させるとともに、新たに③として、来校者へのあいさつを充実させていき、活気がある学校づくりを推進する。
	A2 教職員は、組織の一員として熱心に教育に当たっている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上 保護者の肯定的回答 85%以上	① 確かな学力を育成するために、教員の授業力向上を目指し、校内研修の充実を図る。 ② 生徒一人一人に寄り添うことと、より良い生き方を考えさせるよう生徒指導の充実を図る。 ③ 集団生活を通して、豊かな人間性や社会性を育成する。	A	【達成状況】 ○肯定的回答：生 徒 95.8 % 保護者 88.7 % ・学習指導部会や教科部会を定期的に持ち、授業力向上にむけた工夫改善を行った。また、学力調査等の結果分析をもとに、課題について話し合い、その具体策について考えることができた。 ・①、②、③ともに今年度は全校でよく取り組んでいた。どの学年・部活動でも生徒を認め励ます指導を行っているが、学校独自項目（24）と同様、保護者・地域の肯定率が前年度と比較し下がっている。 【次年度の方針】 ・来年度も週1回の学習指導部会を実施しながら、今年度の取組を継続していきたい。 ・生徒の学力向上には、保護者の協力が必要不可欠なので、保護者会等において学校の取組についての理解を図りながら、啓発を図っていく。 ・②の項目について、以下のように変更し、重点的に実践していくとともに、保護者への周知に力を入れていく。②変更後 → 常に、褒め・認め・励ます指導を全職員が実践するとともに、生徒の良さを様々な機会を通して紹介する。

A3 生徒は、授業と生活のきまりやマナーを守り、秩序があり安全な学校生活をしている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%以上 教職員の肯定的回答 90%以上	① 生活の一日の決まりやチャイム着席など授業時の約束事(準備・姿勢・返事)を实践させ、規律ある生活のリズムを身につけさせる。 ② 自転車の安全な乗り方・交通マナーを常時指導で身に付けさせ、自転車事故ゼロを目指す。	【達成状況】 ○肯定的回答：生徒 94.0 % 教職員 100 % ・交通事故が年度当初に多発した。緊急集会を開くなどして対応し、後半はほとんど事故が無くなった。特に一年生の事故が多かったため、事前の指導が必要である。 ・数値指標は上回っているが、保護者と地域の肯定率が低い。学校外での姿が見えにくい②について、保護者・地域からのご意見をいただく機会を設け、取組の達成状況の点検を行う必要があると思われる。 【次年度の方針】 ・学業指導の充実を図り、授業の決まり(チャイムスタート・終了)を教職員が率先垂範していく。 ・年度当初に、今年度の事故の状況を伝え、特にスピードの出し過ぎや並列運転の危険について周知する。 ・安全指導については、保護者・地域の方の目から見た客観的な見陽中生の様子を把握する取組を行い、指導の成果を点検できるようにしていく。
A4 教職員は、分かる授業や生徒にきめ細やかな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上 保護者の肯定的回答 80%以上	① 分かる楽しい授業を实践して生徒の意欲を高めていく。 ② TT・習熟度学習を实践し、かがやきルームを効果的に活用し、個に応じた指導に努め、基礎・基本の定着に努める。 ③ 生徒個々の意欲を引き出すために、努力した点、成果が見られた点を意図的に賞賛する。	【達成状況】 ○肯定的回答：生徒 87.3 % 保護者 81.5 % ・英語や数学での習熟度別指導に効果が見られた。教科部会等において、連携が取れている成果であると考えられる。 ・学力調査等の結果や定期テストから、個のつまずきを把握し、適切な助言や支援を行うことができた。 【次年度の方針】 ・生徒・保護者ともに肯定的回答を得るには、目に見える成果を上げることが肝要である。提出物等の添削を丁寧に行いながら、個に応じた指導をより一層充実させていく。
A5 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%以上 保護者の肯定的回答 80%以上	① いじめの早期発見・対応のため、アンケートを定期的に行う。 ② 各種たよりやホームページ等に取り組み状況を公表する。 ③ 定期的にいじめ防止対策委員会を開催し、具体策を学校全体で取り組む。	【達成状況】 ○肯定的回答：生徒 95.2 % 保護者 86.2 % ・前年度と比較し、良好な改善が見られている。日々の指導はもとより、学校ホームページや、各種たよりによる情報提供が功を奏したと思われる。 【次年度の方針】 ・今年度の取組を継続し、各学年連携した日々の取組を充実させるとともに、今年度同様、保護者・地域への取組の状況を公表していく。

A6 日課, 授業, 学校行事などの教育課程は, 適切に実施されている 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上 教職員の肯定的回答 85%以上	① 本校の良さや特色を生かした教育課程を編成するとともに, 法令に基づいた授業時数を確保する。 ② 授業時数の確保に向けて, 教員の出張の際は授業交換するなど, 自習時間を減らす取り組みを進める	B 【達成状況】 ○肯定的回答 : 生徒 92.7 % 教職員 100 % ・数値指標は大幅に上回っている。市と比較しても肯定的回答率が高い。生徒と教職員の差があり、生徒が活動しやすい教育課程を編成していく必要がある。 【次年度の方針】 ・本年度と同様の取り組みを継続するとともに、授業時数の確保の手段を明確にする。 ・急な日程等の変更がないように、計画的に教育課程を管理運営していく。 ・授業や学校行事で充実感を得られるよう、生徒の主体的な活動を大切にしていく。
A7 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われている。 【数値指標】 保護者の肯定的回答 85%以上 地域住民の肯定的回答 85%以上	① 学校便りをはじめ, 学校からの様々な通知等をホームページに公表し, 地域とともにある学校づくりに努める。 ② 保護者会・学校行事・学校公開日の持ち方を工夫し, より多くの保護者・地域住民に生徒の様子を見てもらえるよう, 魅力ある学校づくりに努める。	B 【達成状況】 ○肯定的回答 : 保護者 97.3 % 地域住民 96.2 % ・数値指標は大幅に越えているが、地域住民からの肯定回答率が市より低い。ホームページの公表やメール配信は小まめに行い、開かれた学校を目指した。 【次年度の方針】 ・授業公開の持ち方に創意工夫が必要であり、課題である。行事や保護者会等に授業公開を当てること等を含めて、少しでも学校に関心を持てるよう計画・改善を図る。 ・ホームページや一斉メールの更なる充実を目指す。
A8 学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った学校づくりが推進されている。 【数値指標】 保護者の肯定的回答 85%以上 地域住民の肯定的回答 85%以上	① 地域の教育力を積極的に活用し, 学校と家庭・地域・企業等との連携と協力により, 福祉活動や交流活動, 勤労体験活動の充実を図る。 ② 地域協議会の活動を通して, 学校と地域・企業の連携強化を推進していく。	B 【達成状況】 ○肯定的回答 : 保護者 95.8 % 地域住民 96.0 % ・数値指標は大幅に越えているが、地域住民からの肯定回答率が市より低い。 ・地域施設と連携し、福祉活動や交流活動を行うことができた。 【次年度の方針】 ・教職員・保護者・生徒に関しては、肯定回答率は十分なので、地域住民に対してより連携・協力を図っていく。 ・地域協議会のボランティア活動を充実させ、地域の人材を活用していく。 ・ホームページや市民センターの掲示板などを活用し、地域住民への広報活動を充実させる。

A9 校内は、学習にふさわしい環境となっている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上 保護者の肯定的回答 85%以上	① 校内の整理整頓，教室の美化に努め，適切な学習環境づくりに努める。 ② 校内の掲示版や教室・廊下等の掲示物の工夫を図り，潤いのある環境づくりに努める。 ③ 年間を通して，花と緑のある季節感のある学校づくりに努める。	B 【達成状況】 ○肯定的回答：生徒 93.4 % 保護者 97.1 % ・生徒の作品等を掲示するなど、一人一人の頑張りを認め、賞賛することのできる環境になっていた。 【次年度の方針】 ・習熟度教室等の掲示物を工夫することで、基礎的・基本的内容の復習や確認ができるようにする。 ・自主学習によく取り組んでいる生徒のノートを紹介するなどしながら、取組方について考えさせる。
A10 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%以上 保護者の肯定的回答 80%以上 地域住民の肯定的回答 80%以上	① 晃陽中・富屋小・篠井小が連携を図り，地域学校園としての取組を掲示して周知していく。 ② 中1ギャップ解消のために，小中一貫教育を積極的に推進する。	B 【達成状況】 ○肯定的回答：生徒 84.3 % 保護者 94.2 % 地域住民 84.6 % ・数値指標を全て上回っており、地域住民以外は、肯定回答率が市よりも高い。地域学校園では「あいさつ運動」・「小・中間乗り入れ授業」等を行った。 【次年度の方針】 ・地域住民に対し、学校の様子を「発信」する工夫（ホームページの活用や生徒を通じての交流）を行う。また、学校内での掲示物の展示もより周知できるよう工夫する。
A11 多様な専門性を有する学校スタッフの活用により，教員の業務が縮減されている。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 80%以上	① 専門性を有するスタッフの職務内容や活用方法を検討し周知する。 ② 活用実践を随時紹介しながら工夫改善を行い，効果を高めていく。	B 【達成状況】 ○肯定的回答：教職員 68.0 % ・教職員の肯定回答率が、大幅に下回った。具体的な活用場面を共有していく必要がある。 ・教員の業務に対する全体的な煩雑さが解消されていないことも影響していると思われる。 【次年度の方針】 ・専門性を有するスタッフの職務内容を、年度始めに確認する。 ・活用状況を適宜職員に伝達しながら、活用することでの実効性を感じさせ、職員の意識を高める。 ・効果的な活用場面が拡大されるように、職員への周知方法を工夫する。

教育活動の状況		A12 教員は多様な専門性を有する学校スタッフと円滑なコミュニケーションが図れている。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 80%以上	① 専門を有するスタッフが参加する部会等を活用し、コーディネーターや主任を中心に連携を図っていく。 ② スタッフが発行する「たより」を活用するなどして、コミュニケーションの機会を設けていく。	B 【達成状況】 ○肯定的回答：教職員 88.0 % ・生徒指導部会や教育相談部会では、専門を有するスタッフの活用が効果的に行われた。 ・スタッフが定期的に「たより」を発行することで、連携が取れていた。 【次年度の方針】 ・一人職が多い専門を有するスタッフが、連携を取りやすいように、職員間の良好な人間関係作りを推進する。 ・連携を取りやすいように、管理職や主任等がマネジメントしていく。
		B1(20)学校は地域行事に生徒を進んで参加させ、他と協調する大切さを教えている。 【数値指標】 保護者の肯定的回答 80%以上 地域住民の肯定的回答 80%以上	① 生徒に地域の一員であることを理解させるために、地域の行事への積極的参加を奨励する。 ② 地域へ貢献している生徒の姿を、学校だより等で積極的に紹介する。	B 【達成状況】 ○肯定的回答：保護者 89.4 % 地域住民 92.0 % ・学校だより等で生徒の活動を多く紹介したり、地域に貢献した生徒に「晃陽スピリット賞」を授与して賞賛したりした。 【次年度の方針】 ・地域との連携を密にし、地域との交流を図れる場の情報を収集していく。 ・地域交流の案内掲示板を作り、生徒に情報発信をしていくとともに、生徒の活動の様子を紹介することで、活動の輪を広げていく。
	生	A13 生徒は、進んであいさつをしている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%以上 地域住民の肯定的回答 85%以上	① 教職員・来客者・地域の人に対して、心をこめたあいさつができるように努めさせる。 ② 生徒会専門委員会の取組を活性化し、晃陽地域学校園あいさつ運動を定期的に実践する。 ③ あいさつを相手の顔を見ることができるように共通指導していく。	B 【達成状況】 ○肯定的回答：生徒 96.4 % 地域住民 92.3 % ・①、②、③とも実践し、今年度数値目標でも達成となった。多くの生徒が日常的に対教師や生徒間であいさつをしている様子が見られるが、教師よりも先にあいさつをしてくる生徒の割合は多くない。 【次年度の方針】 ・A1とも関連させ、更に発展させていく。それに付随して、地域住民の肯定的回答を85%から90%へ変更し、教職員の項目も加える。
		A14 生徒は、正しい言葉づかいをしている。 【数値指標】 保護者の肯定的回答 80%以上 教職員の肯定的回答 80%以上	① 時と場に応じた言葉遣いができるように日常的な指導に努める。(TPOの理解) ② ソーシャルスキルトレーニング等を活用し、言語活動の充実を図る。	B 【達成状況】 ○肯定的回答：保護者 84.1 % 教職員 88.0 % ・多くの生徒が時と場に応じた言葉遣いできており、数値目標も達成となったが、一部気になる生徒がいる状態である。教職員の肯定的回答も88%と、数値目標は達成しているが、満足とは言えない。今後も継続して指導していく必要がある。 【次年度の方針】 ・次年度は特に TPO についての指導を重点的に行い、適切な場面判断や言葉遣いを身につけられるように指導・支援をしていく。

健康・体力	B2(21)学校は体験活動を通して、共感的な人間関係づくりに努めている。 【数値指標】 保護者の肯定的回答 80%以上	① 教科・領域等で体験学習を年間計画に位置づけ実践する。 ② 奉仕活動等「協働」の場の設定を工夫し、協働する中で望ましい人間関係の構築に努める。	B 【達成状況】 ○肯定的回答：保護者 92.7 % ・今年度の取組として、主として学校行事等の事前・事後指導を通して、共感的な人間関係づくりを推進してきた。保護者の肯定的回答は、各行事での生徒の様子、事後のまとめや保護者会等での発表会の様子、事前指導の様子を各種たよりを通して保護者の方が見ていただいた結果の表れだと思われる。 【次年度の方針】 ・日々の教職員の取組はもとより、保護者会等での報告会や、事前指導の取組を廊下に掲示するなど、保護者・地域への情報公開についても、今年度の取組を継続していく。
	A15 生徒は、進んで運動する習慣を身に付けている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%以上 保護者の肯定的回答 80%以上 教職員の肯定的回答 80%以上	① 体育祭や持久走大会の運営を生徒会に任せ、全生徒の運動に対する意欲を高めるように努める。 ② 体育の授業や運動部活動で、少し頑張れば到達可能な目標を達成することで運動に対する楽しさを味わわせるように努める。 ③ 昼休みの運動を奨励し、指導を通し体育館開放を目指すことで、運動に親しむ習慣を付けていく。	B 【達成状況】 ○肯定的回答：生徒 82.5 % 保護者 75.5 % 地域住民 100 % ・実行委員を動かし、生徒主体の活動を体育祭、持久走大会にて行うことができた。 ・部活動の結果が出ていないことが、保護者の肯定的回答が低い要因の一つと考えられる。 【次年度の方針】 ・実行委員による主体的な体育的行事の運営を通し、運動に対する前向きな取り組みを促す。 ・昼休みの運動を奨励し、生徒会による体育館解放を導入する。 ・生徒たちの中・短期的な目標を持たせ、充実感を持たせながら部活動を盛り上げる。
	A16 生徒は、栄養のバランスを考えて食事をしている。 【数値指標】 保護者の肯定的回答 80%以上 教職員の肯定的回答 80%以上	① 給食・保健だよりを発行し、生徒・保護者の食への関心を高め、より良い食習慣の実践化を図る。 ② 担任・養護教諭・栄養士・家庭科・保健体育科連携による食育指導に努めている。	B 【達成状況】 ○肯定的回答：保護者 77.6 % 教職員 80.0 % ・給食・保健だよりによって、健康、食に関する情報提供を行うことができた。 ・食の大切さを意識した指導を徹底すると共に、家庭の啓発を図る必要がある。 【次年度の方針】 ・給食委員会や保健委員会の活動を通して、食の大切さを意識させていく。 ・たより等を充実させると共に、保護者会やPTA活動などを通して、保護者の意識を高めていく。

学 習 等	B3(22)学校は朝食をとらない生徒に対して、食生活の改善をするように指導している。 【数値指標】 保護者の肯定的回答 80%以上	① 朝食の大切さを指導し、正しい食習慣が健全な心身の発達を促すことを理解させる。 ② アンケートにより、実態を把握し、改善を要する保護者と協力・連携を図り、改善に努める。	B 【達成状況】 ○肯定的回答：保護者 77.2 % ・朝食強化週間などの委員会活動を通して啓発に努めたが、継続した啓発が必要である。 ・保護者会等で全体的に呼びかけることも必要である。 【次年度の方針】 ・朝食強化週間での啓発に加え、日々の呼びかけや確認を心掛けて、意識を高めていく。 ・朝食に関しては、保護者の協力が不可欠である。保護者会で、朝食を摂ることの必要性や家庭での協力を呼びかける。また、親学講座なども開催できると効果的である。
	A17 生徒は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上	① キャリア教育と連携しながら、学習の動機付けを行っていく。 ② 朝の学習等において、基礎的・基本的内容の定着を図り、自信をもたせる ③ 各種学力調査等の結果を活用し、より効果的な指導法を工夫に努め、学習意欲の向上を目指す。	B 【達成状況】 ○肯定的回答：生徒 92.8 % ・各種学力調査等の結果から、対応策を考え取り組むことができた。また、夏休みの三者懇談において、一人一人のつまずきについて確認し、学習法に関して助言することができた。 ・年間を通して朝の学習を行ったことで、徐々に反復学習の習慣が身についてきた。 【次年度の方針】 ・学級活動の年計などを見直ししながら、キャリア教育について計画的に進めていく。 ・新学習指導要領の内容をよく理解した上で、主体的な学びが実現するよう、研修を図っていく。
	A18 生徒は、落ち着いて学習に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 85%以上	① 授業に取り組む心構えを学校全体で指導し、発言の仕方、発表の聞き方などのルール・マナーを身に付けさせるとともに言語活動の充実を図る。 ② 学業指導の充実を推進し、学びに向かう集団づくり、子どもが意欲的に取り組む授業づくりに努める。	B 【達成状況】 ○肯定的回答：教職員 100 % ・学習規律については、徐々に改善しつつある。 ・学年によっては、自信をもって自分の意見を述べることができずに、やや消極的な場面も見られた。 【次年度の方針】 ・学習規律については、全体的には良くなっているため、今後は一人一人に目を向けながら、全員が身に付くようにしたい。 ・みんなが安心して力を発揮できるよう、エンカウンターなどを通して、集団の雰囲気づくり等も大切にしていきたい。

	A19 生徒は、地域でのボランティア活動や行事に参加している。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%以上 保護者の肯定的回答 80%以上 地域住民の肯定的回答 80%以上 教職員の肯定的回答 80%以上	① 地域でのボランティア活動や行事等の情報収集や生徒への周知を工夫する。 ② 生徒が参加した様子を効果的に紹介し、参加した生徒の行動を称賛するとともに、他の生徒への啓発につなげる。	【達成状況】 ○肯定的回答：生徒 89.2 % 保護者 81.6 % 地域住民 92.0 % 教職員 100 % ・数値指標をすべての項目で上回っている。地域行事へのボランティア参加者には、充実感を味わわせるため、「晃陽スピリット賞」を授与するなどして賞賛した。 【次年度の方針】 ・生徒の負担にならない範囲で、地域と交流できる場を提供できるように、情報の収集と広報活動を充実していく。 ・地域の一員であるという自覚と地域に育てられているという感謝の思いを、生徒がもてるように支援していく。
本校の特色・課題等	B4(23) 教職員は自覚と使命感に燃え、専門職として資質の向上に努めている。 【数値指標】 保護者の肯定的回答 80%以上 教職員の肯定的回答 80%以上	① 分かる授業を実践するため、日々の教材研究に努め、指導の工夫に努める。 ② 互いに授業を見せ合い、授業力の向上に努める。 ③ 保護者会・学校行事・学校公開日では、多くの保護者に参観してもらえよう、魅力ある教師・学校づくりに努める。	【達成状況】 ○肯定的回答：保護者 84.3 % 教職員 96.0 % ・研修等を通して、教職員が学び合う場を設定することができた。 ・日々校務に追われていて、教材研究に十分な時間を取れない状況であった。 ・保護者会や地域協議会等において、学校の取組を紹介したり、これからの生徒に求められる力についての理解を求めたりすることができた。 【次年度の方針】 ・例外で指導している教科もあるので、教材・教具や資料等を蓄積しながら共有していけるようにする。 ・研修や授業公開等については、今後も継続していきたい。
	B5(24) 学校は褒め励ます指導を全職員で行い、生徒一人ひとりの長所を伸ばそうとしている。 【数値指標】 保護者の肯定的回答 80%以上 地域住民の肯定的回答 80%以上 教職員の肯定的回答 80%以上	① 日々の活動の様子から生徒個々の良さを発見し、個性の伸長に努める。 ② 常に、褒め・認め・励ます指導を全職員が実践するとともに、生徒の良さを様々な機会を通して紹介する。 ③ 学年・学級経営において、生徒と教師・生徒間のコミュニケーションを密に図っていく。	【達成状況】 ○肯定的回答：保護者 79.8 % 地域住民 94.7 % 教職員 96.0 % ・①、②、③どの取組も今年度非常によく取り組んでいたが、保護者の肯定的回答は目標を若干下回った。 【次年度の方針】 ・今年度の取組を継続するとともに、生徒の良かった点や頑張っている点について、機会を捉えて保護者へフィードバックする取組を行い、教職員の取組について広報していく。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

全体的にみると、ほとんどの項目で肯定回答率が数値指標を上回っており、良い評価を得ることができた。また、市中学校平均値との比較を見ても上回っている項目が多く、教職員の項目はすべての項目が上回った。地域住民の回答肯定率は、数値指標は上回っているものの、市中学校平均値を若干下回った項目が多い。地域住民に日頃の中学校の取組を周知するための工夫が必要である。

【市中学校平均値と比較したアンケート結果からみられる本校の良い面】

「生徒の地域でのボランティア活動や行事への積極的な参加」、「学校の家庭・地域・企業等と連携・協力」、「授業での生徒の落ち着いた学習」、「学校のいじめ対策」、「学校の環境整備」、「小中の連携」、「教員の業務削減」、「生徒の言葉遣い」、「積極的な運動」、「生徒の積極的な学習」

【市中学校平均値と比較したアンケート結果からみられる本校の課題】

「教職員の分かりやすい授業やきめ細かな指導」、「生徒が好き嫌いなく給食を食べている」

6 学校関係者評価

- ・アンケート結果を見ると、生徒は授業中落ち着いて積極的に学習に取り組んでいることがわかる。自習見守りボランティアなどでの生徒の様子を見ても良好である。先生方も授業研究等を行うなど学校全体として学力向上に力を入れており、その成果が学力定着度調査で市の平均に達するなどの結果として表れてきていると思われる。
- ・市と連携した大学生による学習支援の取組である地域未来塾は、生徒に好評であり学力の底上げに効果的だったと思われる。生徒は学習する環境を整えると積極的に参加する姿勢が見られる。システム的には良い取組であるが、地域の人口が減少しているなか、学習支援者を探すのは難しいのが現状である。市と連携した取組を継続してほしい。
- ・学校の情報発信は、ホームページの更新や学校だより等の配付など、積極的に行われている。学校行事等への保護者の参加状況も良好であり、生徒の活動の様子から学校理解が図られていると思われる。学校公開日については、参加率が良いとは言えないのが現状であり、周知方法や取組に改善が必要であると思われる。
- ・地域行事へ中学生がボランティアとして参加するのは、地域としても助かるし、中学生の様子もよくわかる。学校としても賞状を授与して賞賛するなど積極的に奨励している。休日は部活動との兼ね合いもあるが、今後も地域行事等への中学生の参加を奨励していく。
- ・学校では見えない生徒の改善点等が地域で見られた場合は、学校へ情報を提供していく。

7 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・アンケートの結果を見ると、本校の昨年度や市平均と比較しても、全体的に良好な結果を得られた。今後も、ホームページの充実や学校だより等の配付・回覧、学校公開の周知や実施方法の工夫をしていくことや、地域からの情報収集を工夫することで、学校・家庭・地域との一層の連携を図り、地域とともにある学校づくりを推進していく。
- ・学習では、本年までの2年間学力向上応援派遣事業を通して、教職員の授業力改善や生徒の学習の習慣化を図り、一定の学力向上という結果を得ることができた。その取り組みがアンケート結果として表れてきていると思われる。今年度の取り組みは継続するうえで工夫改善を図り、一層の学力向上を目指す。
- ・今年度の「晃陽スピリット賞」の授与など、生徒の学校及び地域での活動を認め・励ますことを通して、生徒の自己有用感が育まれ、本校が目指す「生徒が安心して力を発揮できる学校」作りにつながると考えられる。今後も、生徒の活躍を賞賛する機会を工夫していく。